

<b>〔科目名〕</b> <b>学習導入演習</b>	<b>〔単位数〕</b> 2単位	<b>〔科目区分〕</b> アカデミック・コモン・ベーシックス 基礎 (必修)
<b>〔担当者〕</b> 高橋 基樹 TAKAHASHI, Motoki	<b>〔オフィス・アワー〕</b> <b>時間:</b> 講義開始後に指示する。 <b>場所:</b> 617 研究室	<b>〔授業の方法〕</b> 演習形式 + 講義形式
<b>〔科目の概要〕</b> <p>本科目は、高等学校までの受動型学習とは異なった、大学での学び方である、「自ら考えて学習テーマを設定し、そのテーマに関する調査を行ったうえで、その結果をまとめて表現し、他者と議論する」という学問的姿勢を身につけることを目的とする。そのため第一に、大学における学問とは何かについて学び、学問への取り組み方について、「思考」と「問う」ということをキーワードとして考える。そのうえで、自分自身での学習テーマの設定方法や調査方法について学び、レポートや論文などで自分の考えた内容を表現し、議論する方法を学ぶ。</p> <p>講義の各回では、まず大学における学問とはどのようなものかについて学んだうえで、自らの問題関心について各自で考え、問題設定を行う。その際、受講者個人と教員との間だけでなく受講者間の中でも情報を共有し、自身の問題関心を深めて問題設定を行っていく。そのうえで、大学のポータルシステム、図書館やインターネット等を活用して文献や情報を収集し活用する方法等を実践し、各自で調査を行うための基礎を本科目の講義内で身につける。そして、自分自身での調査結果をまとめ、レポートや論文を作成し、他者に表現する。表現されたものについては、他者と意見を交わし、議論を行うことで、より自分自身の考え方を深めていけるようにする。</p>		
<b>〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕</b> <p>「課題発見→調査→表現(レポート・論文や口頭発表等)→議論」を行う能力は、大学での学問への取り組みとして必要なだけでなく、今後の人生において、また社会人としても求められる能力でもある。そのため、今後の大学生活における学問的姿勢を身につけるだけでなく、各自の将来的な生活においても有用となる能力を本科目の中で学んでもらいたい。</p>		
<b>〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕</b> <p>本科目では、大学生活における「学び」の方法を理解することを中間目標とし、最終的には以下の事項を習得することを最終目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 大学における積極的学習方法としての学問的姿勢を身につける。</li> <li>(2) 自分自身の興味・関心を確認し、取り組むべき学習テーマを模索したうえで、設定できる。</li> <li>(3) 自分自身で設定した学習テーマの調査方法を知り、資料や情報を収集できる。</li> <li>(4) 収集した資料や情報を整理・要約し、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>(5) 自分自身の考え方をレポートや論文といった文章で正しく表現することができる。</li> <li>(6) 自分自身の考え方を文章や口頭で他者に伝え、他者の意見を聴き、再考することができる。</li> </ol>		
<b>〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕</b> <p>本科目においては、主に大学で今後取り組むことになるレポートや論文等の課題や、将来取り組む可能性のある卒論執筆に向けた文章の書き方を学ぶことを念頭においた講義を行い、加えて演習形式で学ぶ。ただし、こうしたレポート等の書き方を学ぶ前に、大学での学問に取り組む姿勢や関心などについて講義を行う点で、この点、大学基礎演習での講義内容と重なる点がある。そのため、これまでの授業評価アンケートにおいて、この重複の指摘があった。こうした大学での学問に取り組む姿勢や関心などについては、本科目でも学んでほしいと考えるため、本科目でも取り扱う予定である。そのうえで本科目の主要目的である、レポート等の書き方といった学問への取り組み方を学んでほしい。そしてこのような目的で本科目を実施しているところ、前年度の授業評価アンケートにおいては、一定の高評価を頂いた。そのため、本年度もこれを受けて、これまで通り、大学における姿勢と大学における課題としてのレポート執筆方法等を取り扱って展開する予定である。</p> <p>また、本科目ではグループ学習の機会を設ける予定であるが、この点について、前年度の授業評価アンケートでは一定の高評価を頂いた。今年度も、教員が履修者に一方的に講義するだけでなく、履修者自身も積極的に講義に参加する展開の授業形式を、より模索しながら進めていこうと考えている。加えて、本科目の一定時間で教員による講義形式での進め方があることに対して、その性質上、一方的に講義される要素があるがゆえに、この話し方の工夫を求めるような意見もあった。そのため、この点は工夫しながら、本科目を展開していくことを心がける。</p>		
<b>〔教科書〕</b> 使用しない。 本演習は、適宜、教員が作成したレジュメを配布する予定である。		
<b>〔指定図書〕</b> 講義中に紹介する。		

<p><b>【参考書】</b>  河野哲也『レポート・論文の書き方入門(第4版)』(慶応義塾大学出版会、2018年)  東谷護『大学での学び方「思考」のレッスン』(勁草書房、2007年)  山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門 研究のための8つの力』(ミネルヴァ書房、2011年)  世界思想社編集部(編)『大学生 学びのハンドブック(4訂版)』(世界思想社、2018年)  本田勝一『&lt;新版&gt;日本語の作文技術』(朝日文庫、2015年)  など。上記以外は講義中に紹介する。</p>	
<p><b>【前提科目】</b>  なし</p>	
<p><b>【学修の課題、評価の方法】(テスト、レポート等)</b>  授業に対する積極的な取り組み姿勢(発言やコメントペーパーによる意見の提出、課題など)に加えて、期末レポート(4000字程度)に基づき、総合的に成績評価を行う。</p>	
<p><b>【評価の基準及びスケール】</b></p> <p>A 評価(GPA 4.0) = 80点以上  B 評価(GPA 3.0) = 70点以上 80点未満  C 評価(GPA 2.0) = 60点以上 70点未満  D 評価(GPA 1.0) = 50点以上 60点未満  F 評価(GPA 0.0) = 49点以下</p>	
<p><b>【教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望】</b>  本科目では、能動的な学習が求められる大学での学問的姿勢を身につけることが目的であるため、講義形式だけでなく演習形式を中心として構成される授業内容に対して積極的に参加することが必要である。単に教員からの講義や指示を期待するのではなく、自ら積極的に考え、調査し、発言することを受講者には期待する。また、適宜、課題を設定することがあるが、それに対しても積極的に取り組む姿勢を期待する。  なお、授業内容については、授業の進捗を勘案して適宜調整することがある。加えて、受講者の習熟度によっては、授業内容を変更することもある。</p>	
<p><b>【実務経歴】</b>  該当なし</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 高校までの学び方と大学での学び方  内 容: これまでに経験してきた受け身型の学習方法とは異なる、大学での学問の学習方法について学び、学問的姿勢とは何かについて考える。  教科書・指定図書 指定なし</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「思考」することの意味  内 容: 大学で学ぶうえで重要な「思考」することの意味について考える。  教科書・指定図書 指定なし</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「問い」をたてること  内 容: 大学での能動的学習を実践するために、自分自身で取り組むべき問題を設定する方法を学ぶ。  教科書・指定図書 指定なし</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「読む」方法・文献の読み方  内 容: 自分自身で設定した問題を解決する方法を探究するための材料としての文献を「読む」方法について検討し、学ぶ。  教科書・指定図書 指定なし</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 文献や資料を「調べる」方法  内 容: 図書館の利用方法等を、ガイダンスを通じて学ぶ。またインターネットを活用した資料収集方法(新聞記事のデータベースの利用方法など)も学ぶ。  教科書・指定図書 指定なし</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 文献や資料を「集める」・興味を「伝える」</p> <p>内 容: 図書館を利用して、各自が興味をもった図書を見つけ、課題設定を行う。そのうえで、自分自身の興味について、他者に発表する。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 文献講読と「要約」の方法</p> <p>内 容: 教員が提示する文章を各自で要約し、他者に内容を発表する。そのうえで、他者の意見にも耳を傾け、自分自身の要約方法が適切か考える。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 適切なレポートと不適切なレポートの比較</p> <p>内 容: 1つのテーマに関するレポートのまとめ方として、どのようなレポートを作成することが適切であるか、不適切なレポートとはどのようなものかを考えながら検討する。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「書く」方法・作文の技術(1) (文章における修飾・被修飾)</p> <p>内 容: レポートや論文作成を行ううえで、正しくわかりやすい日本語を書くことができるようにするために、文章における修飾・被修飾の関係を整理する方法を学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「書く」方法・作文の技術(2) (句読点の使い方)</p> <p>内 容: レポートや論文作成を行ううえで、正しくわかりやすい日本語を書くことができるようにするために、文章内での句読点の適切な使用方法について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「書く」方法・作文の技術(3) (漢字とカナの関係)</p> <p>内 容: レポートや論文作成を行ううえで、正しくわかりやすい日本語を書くことができるようにするために、文章における漢字とカナの使い分けの方法について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「書く」方法・作文の技術(4) (助詞の使い方)</p> <p>内 容: レポートや論文作成を行ううえで、正しくわかりやすい日本語を書くことができるようにするために、文章における適切な助詞(「てにをは」等)の使い方について学ぶ。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): テーマに沿った「文章」作成(1)</p> <p>内 容: 教員が提示するテーマについて思考し、自分自身の考え方をまとめ、その概要を発表する。また他者の意見にも耳を傾け、自分自身の考えを改めて問い直す。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): テーマに沿った「文章」作成(2)</p> <p>内 容: 教員が提示したテーマについての自分自身の考え方をまとめた文章を作成し、発表する。また他者の意見にも耳を傾け、自分自身の考えを改めて問い直す。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): レポート作成の実践</p> <p>内 容: 各自で設定した問題関心に基づき、文献や資料等についてまとめ、レポートの作成に取り組み、完成させる見通しをたてる。</p> <p>教科書・指定図書 指定なし</p>
試験	<p>期末レポートの提出</p>